

小学校区の文化財

次のページから始まる「小学校区の文化財」中に紹介される文化財の種類については、以下のように略しています。

国指定重要文化財→国重文

国指定重要無形文化財→国無文

国指定重要無形民俗文化財→国無民

国指定史跡→国史跡

国指定名勝→国名勝

国指定天然記念物→国天記

国選定重要文化的景観→国文景

国選定重要伝統的建造物群保存地区→国伝建

国選定保存技術→国保技

国選択無形民俗文化財→国選無民

国登録有形文化財→国登文

大分県指定有形文化財→県有文

大分県指定無形民俗文化財→県無民

大分県指定史跡→県史跡

大分県指定名勝→県名勝

大分県指定天然記念物→県天記

大分県選択無形民俗文化財→県選無民

日田市指定有形文化財→市有文

日田市指定有形民俗文化財→市有民

日田市指定無形民俗文化財→市無民

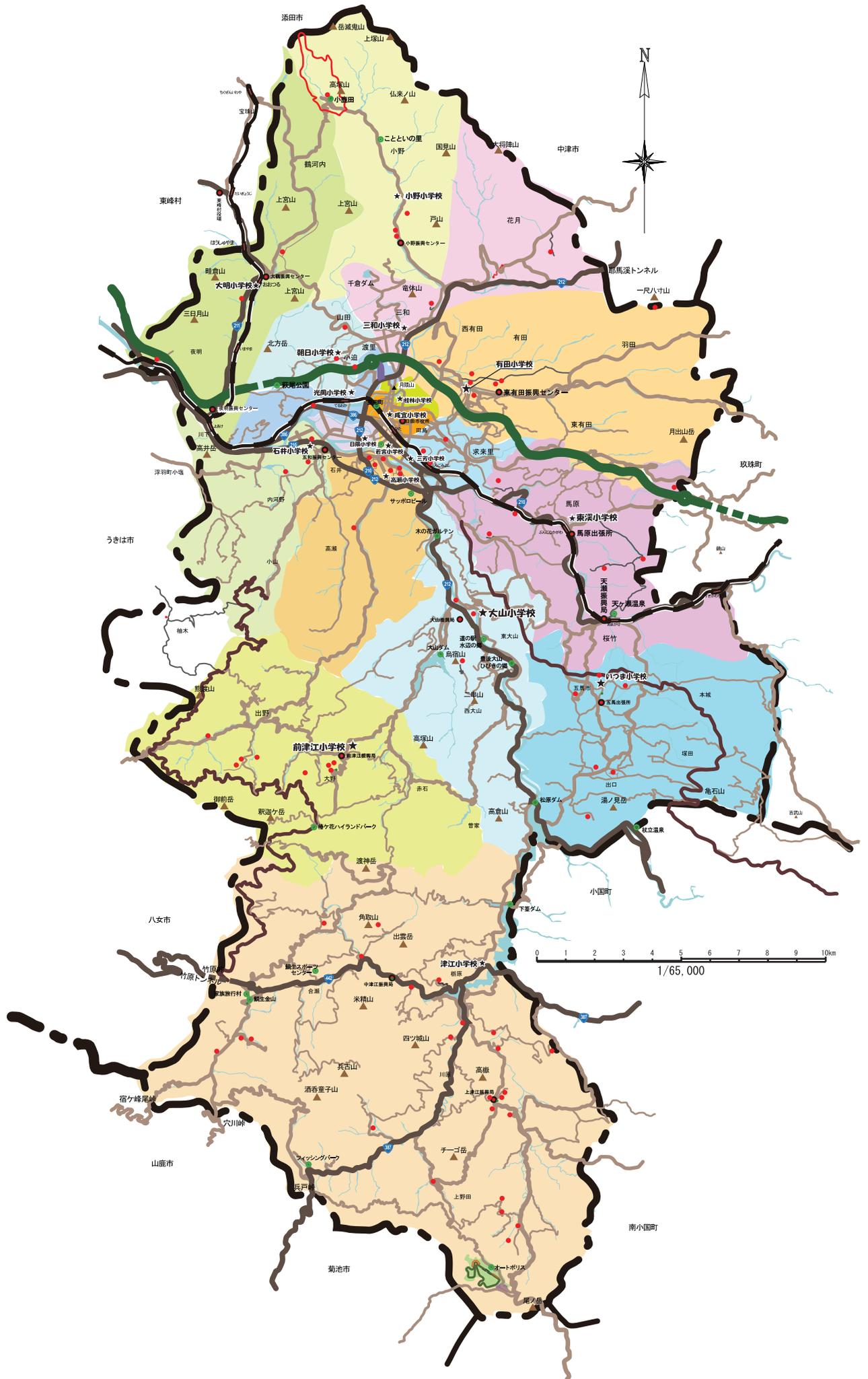
日田市指定史跡→市史跡

日田市指定天然記念物→市天記

また、文化財の名称の前には以下のブロックを置いて種類ごとに色分けしています。

 有形文化財	 文化的景観
 無形文化財	 伝統的建造物群
 民俗文化財	 保存技術
 記念物	 埋蔵文化財

【次ページの地図は、市内の小学校区を色分けしたものです。みなさんの学校の位置（★印）と文化財の位置（●）を記しています。各小学校区詳細は、各ページに別途載せていますので、それぞれ確認してみてください。】





咸宜校区の文化財

咸宜校区は日田盆地の中央、市内を東から西に流れる三隈川の北側に位置し、校区内にはJR久大本線の線路も通っています。校区の北には花月川かげつがわが北東から南西方向に大きく曲がって流れ、慈眼山のところでは城内川とに分かれます。

校区全体が平らな土地にあるため、おかしは雨が多く降ると川の水があふれて、町の中が水びたしになることもありました。

校区はどのようにできていったのでしょうか。1688（貞享5）年に作成された絵図には、豆田町を中心に道路や町のようなすが描かれています。現在の道路とくらべてもあまり大きな変化はありませんが、人々が生活する場所として多くの家が建ったことで、田や畑は減ってしまいました。この地域は、中城村、城内村とよばれていました。その後、日田代官所が丸山地区にできてからは、中城村の中心は豆田町とよばれ、九州各地から多くの人が集まるにぎやかな町になっていきます。村や町の名前は、中城村から豆田町、中城町、港町へと変化し、城内村の一部は中城町、古城廻村の一部は丸の内町、堀田村は淡窓町や三本松、田島村は田島町や田島本町などに変わっていきました。

咸宜校区には多くの歴史や文化が残っていますが、学校名には廣瀬淡窓が開いた私塾「咸宜園」の名が使われています。また、淡窓やその弟久兵衛が暮らした廣瀬淡窓旧宅を始め、長福寺や草野家住宅など貴重な建物が数多く残っています。

咸宜校区の主な文化財



咸宜園跡【国史跡】（淡窓二丁目）

咸宜園は、江戸時代に廣瀬淡窓が開いた私塾で、全国各地から5,000名もの入門者がいました。淡窓は、誰でも学ぶことのできる学校にしようと思い、入門者の身分・年齢・学歴を問わない「三奪法さんだつほう」をつくりました。また、毎月実施される試験の結果により生徒全員の名前が掲載される「月旦評げったんひょう」など、他の日本の私塾にはない取り組みが全国的に評判となり、江戸時代を代表する私塾となりました。

日田市豆田町伝統的建造物群保存地区【国伝建】

草野家住宅・長福寺本堂【国重文】（豆田町）

豆田町は、小川光氏おがわみつうじが1601（慶長6）年に築いた丸山城（後に永山城）の城下町「丸山町」がその始まりとされ、その後、「永山町」から「豆田町」へと名称が変更されます。日田代官所が置かれてからは千原家や廣瀬家、手島家、草野家といった有力な商家が豆田町を活性化させました。地区内には大分県内最古の商家建築・草野家住宅や九州で最も古い浄土真宗寺院建築の長福寺本堂が残され、江戸時代前期の面影を随所に見ることができます。

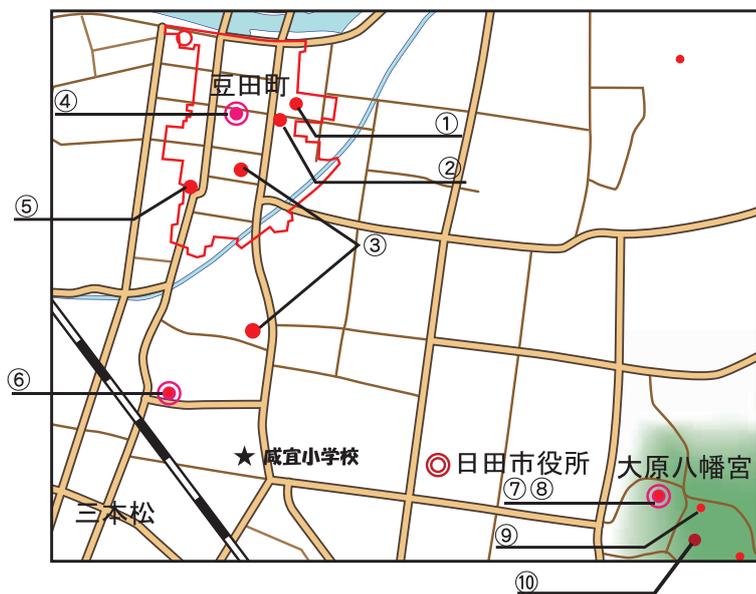


咸宜校区の主な文化財

廣瀬淡窓旧宅及び墓【国史跡】

(豆田町・中城町)

廣瀬家は、江戸時代前期に日田の地に移り住み、商家としての営みを340年ほど積み重ねてきました。廣瀬淡窓や久兵衛などに代表される「廣瀬八賢」と呼ばれた先哲が生まれ育ち、彼らが過ごした建物や土地が今も残されています。また、近くには淡窓を始めとした私塾咸宜園の塾主を努めた旭莊や青村、林外などが眠る墓地「長生園」も現在までその姿をとどめています。



その他の文化財

薬師堂山古墳【県史跡】

(田島町)

古墳は、大原八幡宮の東側に続く丘陵上に位置し、堅穴式石室をもつ円墳です。古墳の大きさは直径が38mと市内で最も大きな円墳で、この古墳が造られた時期は、5世紀中頃と考えられます。古墳の上やその周辺からは、日田市で唯一、円筒埴輪や太刀形埴輪が発見されています。



大原八幡宮と祭礼行事

大原八幡宮【市有文】

大原八幡宮御田植祭【県無民】

大原八幡宮の米占い行事

【国無民】

大原八幡宮は、伝説によれば天瀬町馬原に出現した八幡神を元大原の地(神来町)に祀ったことから始まります。江戸時代の初めに現在の場所に移ってきました。社域内の建物は江戸時代に建築されたものが多く、神様を祀った本殿や礼拝する建物の拝殿などが残っています。そのほか、八幡宮では御田植祭や米占い、放生会など人々の暮らしに関するお祭りが今も続けられています。

咸宜校区の文化財

- ①長福寺本堂【国重文】
- ②岩尾家住宅【国登文】
- ③廣瀬淡窓旧宅及び墓【国史跡】
- ④日田市豆田町伝統的建造物群保存地区【国伝建】
- ⑤草野家住宅【国重文】
- ⑥咸宜園跡【国史跡】
- ⑦大原八幡宮(楼門・拝殿・幣殿・本殿)【市有文】
大原八幡宮の米占い行事【国選無民】
- ⑧大般若波羅密多經【市有文】
- ⑨大原八幡宮銅鉾【県有文】
- ⑩薬師堂山古墳【県史跡】



桂林校区の文化財

桂林校区は日田盆地の中央東側、市内を東から西に流れる三隈川の北側に位置しています。校区の北側には花月川が北東から南西方向に向って大きく曲がりながら流れ、慈眼山のふもとでは隧道によって城内川とに分かれます。校区には城町や上城内、城内新町など「城」の文字が多くみられますが、桂林校区の歴史は城との関わりが深いようです。

校区は豆田町から東に行くにつれて、少しずつ高い土地が形成され、上城内町の東側には目の前に高い丘陵（台地）と山林が広がっています。そのため、江戸時代に廣瀬久兵衛らがつくった小ヶ瀬井路は、これらの高い土地を利用して、桂林地区から西側の豆田町に向って水を流して行きました。

校区の歴史は古く、現在確認できるものでは丸山古墳や慈眼山の仏像群、堤城跡や八阪神社などたくさんの見るべきものがあります。

この地域は、今から400年ほど前の江戸時代には城内村と呼ばれていました。最初は、大蔵氏が慈眼山に居館を構え、その後も慈眼山の南に連なる山頂に堤氏が城を築いた後、江戸時代になると丸山町に永山城や江戸幕府の代官所が築かれるなど、桂林地区は長い間にわたって、日田の政治を行う場所となっていました。また、その頃、慈眼山南側には寺町がつくられ、5つの寺が連なって存在していたことが昔の絵図で確認できます。その他、校区内には「相撲の神様・大蔵永季」が祀られた日田神社や廣瀬淡窓が開いた私塾「桂林園」の跡地など貴重な文化財が残されています。

知っておきたい文化財

堤城跡【未指定】（上城内町・城内新町）

室町時代の後半頃、豊後国（大分県）は大友義鑑（大友宗麟の父）が守護大名として支配していました。その頃の日田郡は、大友姓日田氏の時代が終わりを告げ、日田の武士たちは義鑑の部下となって、8人の武将が日田郡を分担して治めています。これらの武将を「八奉行」又は「八郡老」と呼んでいました。堤氏はその一人で、城内地区をまかされて城を山の上に築いていました。このような八奉行支配は豊臣秀吉が日田を「太閤蔵入地」とするまで続いたとされています。

八阪神社【未指定】（上城内町）

江戸時代、日田郡（有田地区）の一部は玖珠郡を中心に治めていた森藩の領地でした。そのため、上城内の八阪神社は森藩主の久留嶋氏によって建築されました。八阪神社の総本社は京都にあります。が、疾病の流行を鎮めるためにインドの神様（祇園精舎の神）をお迎えし、祀ったことが始まりとされます。現在、豆田町や隈町で行われる祇園祭りには各町の八坂神社が重要な役割をしていますが、この場所にある八阪神社が日田で最初のものと言われています。

桂林校区の主な文化財



桂林園跡【未指定】（城町一丁目）

1807（文化4）年、廣瀬淡窓は現在の城町に私塾「桂林園」を開きました。桂林園は咸宜園の前に作られた塾の一つです。新築した塾の建物は、淡窓や門下生たちが皆で資金を出し合っただと伝えられています。塾の前には城内川が流れていますが、淡窓の有名な「休道の詩」はこの場所で作られました。

桂林校区の主な文化財



慈眼山仏像群【国重文】（城町二丁目）

慈眼山には、平安時代に日田を治めていた大蔵氏が居住する「大蔵古城」（別名鷹城）があったとされ、丘陵の上にはその痕跡が今も残されています。大蔵氏は、大原八幡宮（元大原宮）や慈眼山永興寺など、日田の各地に多くの寺院や神社を造りました。大蔵一族が活躍した証しとして、現在、永興寺に大蔵永季をモデルとした仏像「木造兜跋毘沙門天立像」があります。その他にも平安時代末から鎌倉時代にかけて京都や奈良の仏師が作った仏像群を見ることができます。



知っておきたい文化財

日田神社と日田殿【未指定】 （城町二丁目）

慈眼山のふもとには、相撲の神様「日田殿」を祀った日田神社があります。平安時代、相撲の節会（大会）に16歳にして初めて招かれた青年が大蔵永季でした。決勝では、それまで無敵とされていた出雲の「小冠者」に勝ったことで全国的にも有名となり、その後も35年間で15回の節会に出場し、一度も負けることがなかったといわれています。



丸山古墳【市史跡】（上城内町）

丸山古墳は、桂林小学校の東側にある丘陵上に位置し、山を削りだして造ったと考えられます。また、その形状から円墳と呼ばれています。古墳時代中期の5世紀頃に造られたと考えられ、大きさは直径が20mほどで、高さは7mにもなります。遺骸を埋葬する空間として、たてあなしきせきしつ 竪穴式石室を持っていました。

桂林校区の文化財

- ①花月川隧道【未指定】
- ②日田神社【未指定】
- ③慈眼山仏像群
木造十一面観音立像・木造兜跋毘沙門天立像
木造毘沙門天立像・木造四天王立像【国重文】
- ④丸山古墳【市史跡】
- ⑤八阪神社【未指定】
- ⑥堤城跡【未指定】
- ⑦永山城跡【県史跡】



日隈校区の文化財

日ノ隈町や亀川町を中心とした11町で構成される日隈校区は、1596（慶長元）年頃に日隈城主毛利高政によって整備された、城下町隈町と日隈城（亀山公園）を中心とした一帯にあたり、三隈川と庄手川に挟まれた中州の日ノ隈町一帯には武家屋敷があったと考えられています。

1594（文禄3）年につくられた日隈城には天守閣と櫓があったとされ、今では三隈川に面する大手門の石垣にその名残が見られます。隈町は南を三隈川、北を川原町から本庄町にかけて引かれた堀で囲まれており、日隈城と共に堅牢な城砦都市でした。江戸時代に入ると新たに永山城と豆田町が作られ、政治の中心が隈から豆田へ移りますが、隈町は商人の町として栄えます。山田家や後藤家などはその頃の隈町の豪商の雰囲気を残しており、300年の歴史を持つ日田祇園の曳山行事、鶺鴒などに当時の賑わいが見られます。

そのほか、日隈神社からは平縁細線式獸帯鏡が発見されています。江戸時代の終わりごろに発見されたため詳細は分かりませんが、三隈川を望む場所に、日隈地区一帯を治める人物の古墳があったと考えられます。このように、日隈校区は古代以来、さらには江戸時代以降も日田の中心的役割を担った地区でありました。

日隈校区の主な文化財

日隈城【未指定】（日ノ隈町）

1594（文禄3）年に宮木長次郎豊盛によって築城された城で1596（慶長元）年に毛利高政によって改修、1616（元和2）年には廃城となります。五重の天守や3重の月見櫓、大手門などが整備され、城下には2重の堀と土塁が廻らされていました。1600（慶長5）年の関ヶ原の戦いの際に黒田如水（官兵衛）に明け渡されましたが、堅牢な城として知られ、大手門に残る石垣からは、当時の優れた土木技術を知ることができます。

知っておきたい文化財

山田家住宅【国登文】 （隈二丁目）

江戸時代には町年寄、代官御用達を務めた豪商で、切妻屋根の重厚な本瓦葺屋根の主屋は江戸時代後期に建てられました。当時の豪商の町家の姿を今に留める貴重な建物です。



← 日隈城跡

日隈城絵図 →

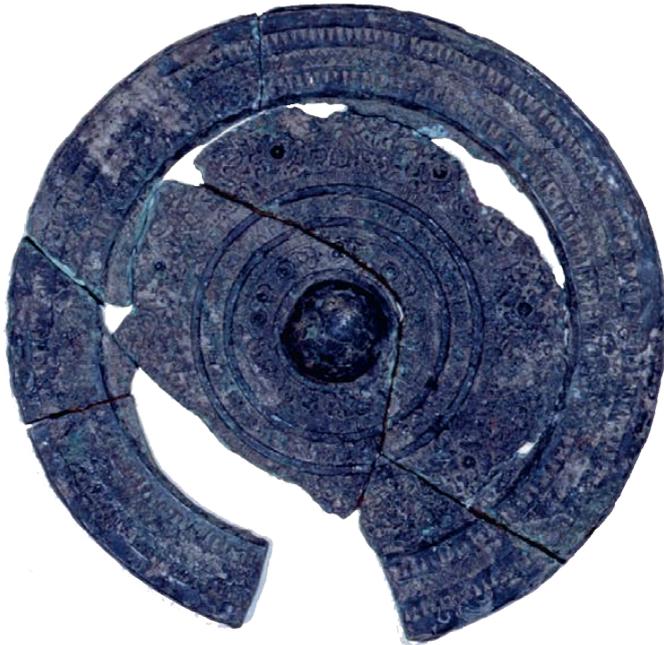


日隈校区の主な文化財

ひらぶちさいせんしきじゅうたいぎょう

平縁細線式獣帯鏡【県有文】(日ノ隈町)

面径22.5cmで、6個に破損しています。唐草文風の文様を配し、外側に細線で獣形がつけられています。江戸時代末頃に発見されたため、詳細は不明ですが、6世紀前後の古墳に埋葬されたものと思われます。そのほか玉と小型の鏡が出土しており、現在日田祇園会館に展示されています。



むらまえ 村前遺跡 【未指定】

日隈こども園一带に広がる遺跡で、古代の集落跡と中世の屋敷跡が発見されています。この一帯に日隈城の武家屋敷などがあったと考えられています。



拡大

知っておきたい文化財

後藤家住宅【国登文】(隈二丁目)

材木商を営んでいた商家で、妻入母屋造りの主屋は1887(明治12)年の建築とされ、隈町を代表する上質な町屋の姿を留める貴重な建物です。



むらくもの松【市天記】

(隈二丁目)

祇園社として知られる隈町八坂神社に残る松で、1706(宝永3)年に植えたとされ、樹齢は300年です。高さは3mに及び、幹の最大周は2m。竜の如く社殿を廻る姿から、むらがり立つ雲として「むらくも」の名がつけられました。



日隈校区の文化財

- ①日隈神社平縁細線式獣帯鏡【県有文】
- ②山田家住宅【国登文】
- ③むらくもの松【市天記】
- ④後藤家住宅【国登文】
- ⑤隈まちづくりセンター黎明館【国登文】
- ⑥酒楽神社木造薬師三尊像【市有文】
- ⑦日隈城【未指定】





若宮校区の文化財

若宮町や川原町を中心とした8町で構成される若宮校区は、三隈川沿いに東西に細長く、1596（慶長元）年頃に日隈城主毛利高政によって整備された城下町隈町とそこに隣接する「竹田村」を中心とした地域にあたります。

街道が交差する照連寺前の「札の辻」（役所が高札を立てた場所）や、浄満寺と照連寺の間に流れる堀の痕跡、東町一帯には、照連寺、浄満寺、広円寺、若宮町には祇園社（今はない）と若宮神社などの社寺が集中するなど、随所に江戸の姿が残っています。さらに、川原町の東端には1825（文政8）年に開通した日田川通船（三隈川を通じた運送船）の港（竹田河岸）があり、竹田川原（現在の竹田公園）には米蔵などが建てられたと伝えられています。このような江戸時代の賑わいは、300年の歴史を持つ日田祇園の曳山行事、日隈城の築城と共に伝わった鵜飼などに見ることができます。

こうした特徴を持つ若宮地区は水害が多く、入龍遺跡や柳ノ本遺跡で古代人の生活痕跡が知られるのみですが、日田の民陶である小鹿田焼の器類を収集展示している小鹿田焼古陶館には、有田校区の有田古墳から出土した副葬品も所蔵されており、日田の貴重な文化財に触れる環境が整っている地区でもあります。

知っておきたい文化財

有田古墳出土一括品【市有文】 （本町、小鹿田焼古陶館）

有田川右岸の丘陵上にあった横穴式石室を主体部とする古墳から出土した遺物で、国産の鏡（珠文鏡・六獣鏡）2面、碧玉製勾玉1個、管玉・ガラス製小玉多数と須恵器で構成されています。5世紀前半頃のものと思われます。



若宮校区の主な文化財

日田祇園の曳山行事【国無民】（若宮町）

日田祇園会は、日隈城廃城の際に城内にあった八坂神社を現在の場所に移した際に厄除けの神事として始まったとされています。寛文年間（1660～72）には、杉や竹の枝葉で飾った山鉾でしたが、1714（正徳4）年に京都祇園・山鉾を手本として豪華絢爛な山鉾が登場し、次第にその高さは10mに達したとされます。江戸後期の文化年間（1804～18）には、みやびやかな現在の祇園囃子が始まりました。

行事は毎年7月20日過ぎの土・日に隈・竹田の八坂、若宮神社、豆田地区の八坂神社で行われ、隈5基、豆田4基の山鉾があります。隈・竹田地区では1704年頃に竹田村祇園社が建立されて山鉾が往来していましたが、今は若宮神社へと移っています。

この行事は2016（平成28）年11月30日、「山・鉾・屋台行事」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



若宮町



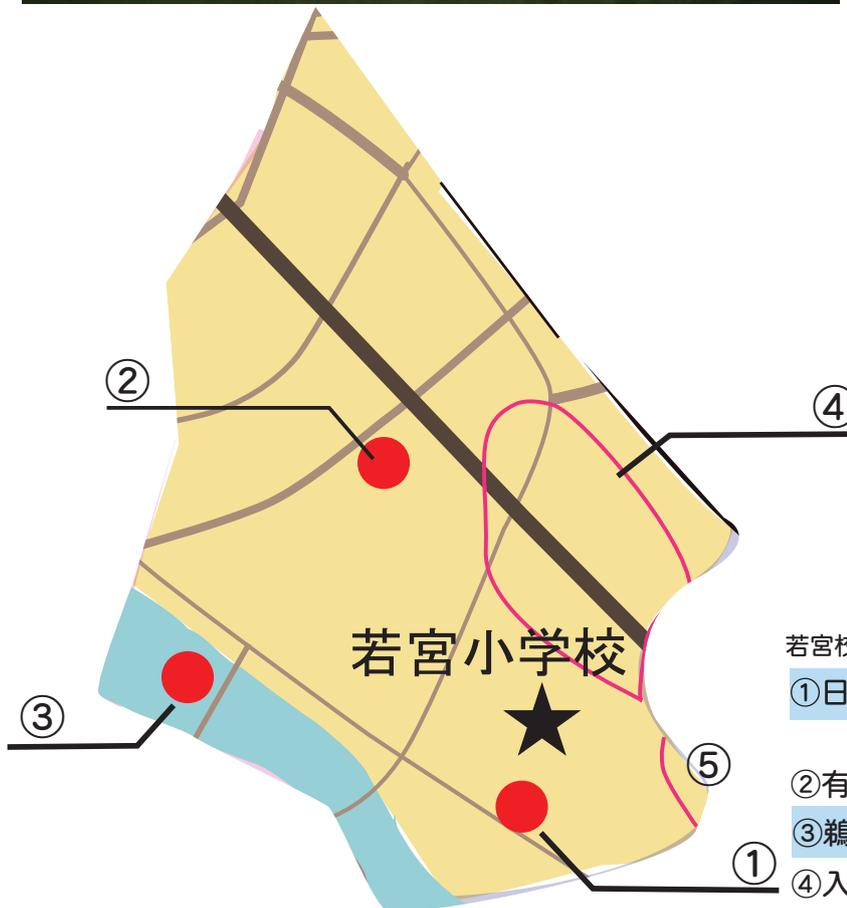
川原町

若宮校区の主な文化財

鵜飼【県無民】(竹田地区)

日隈城を築城(1594年)した宮木長次郎豊盛が岐阜・長良川から鵜匠を4名招き、中城村、竹田村、鎌手村、上津江の庄屋4家に養わさせたと伝えられています。江戸時代には代官の許可を得て保護され、現代に伝わっています。

毎年5月下旬から10月末まで、現在は2名の鵜匠が観光客に伝統漁法を披露しています。



知っておきたい文化財

柳ノ本遺跡【未指定】

三隈川右岸の沖積地の小高い部分にある遺跡で、弥生時代から古代までの集落や墓地が確認されました。弥生時代の甕棺墓は若宮地区を治めた首長の墓と考えられています。

三隈川の氾濫を受けやすい土地にありながら、細かな地形を利用して、集落や墓地を営んだことをうかがうことのできる遺跡です。



入龍遺跡【未指定】

三隈川の氾濫原と考えられる東町～南元町一帯で確認される弥生時代～古墳時代の遺跡です。南元町の微丘稜に集落があったと推測され、若宮公民館周辺では洪水で流された土器類が発見されています。

若宮校区の文化財

①日田祇園の曳山行事【国無民】

【ユネスコ無形文化遺産】

②有田古墳出土一括品【市有文】

③鵜飼【県無民】

④入龍遺跡【未指定】

⑤柳ノ本遺跡【未指定】



三芳校区の文化財

三芳校区は日田盆地の東部にあり、南側には三隈川が流れています。「三芳」という名称は昭和15年までの村名で、日高・求来里・田島の3村が合併したことに由来します。

三芳では、1万数千年前からの人々の生活の跡が見られますが、初めて記録に登場するのは、奈良時代に書かれた『豊後国風土記』の中です。古代の日田を治めた日下部氏の祖先である「邑阿自」が鞆部（矢を入れる筒を編む職人集団）として大和朝廷に仕えたことから、鞆負という地名がついたといわれ、現在の「刃連」町の由来となっています。この日下部氏が眠っていると考えられているのが、国指定史跡の法恩寺山古墳群です。また、古墳時代の中頃には、求町や神来町では朝鮮半島の先進的な技術を取り入れた集落が見つかっています。

古代には鞆編郷の中心的な場所となり、耕地の開発が盛んに行われるようになります。918（延喜18）年に天瀬町馬原の鞍形尾神社が神来町に移され、元大原神社ができました。その後、中世には大部町の牧原で南北朝の争いの一つがあったといわれています。近世には、下井手村・上井手村・刃連村・求来里村・田島村があり、日田と各地を結ぶ道路が整備され、牧原遺跡で小国へ向かう道の跡が見つかっています。また、小ヶ瀬町から日高町や刃連町を流れる小ヶ瀬井路が廣瀬久兵衛などによって作られ、各地の田を潤すようになりました。

三芳校区の主な文化財

法恩寺山古墳群【国史跡】（刃連町）

法恩寺山古墳群は刃連町北側の法恩寺山にあります。この古墳群には古墳時代後期を中心に造られた7基の円墳（1～7号）があります。3号墳は市内に4基ある装飾古墳の一つで、亡くなった人を置く部屋である横穴式石室の壁に赤い色で円文や鳥・人・馬など描かれているのが特徴です。

また、4号墳からは馬の飾り道具や鉄の矢じりなどが数多く見つかっています。市内では数の少ない装飾古墳を含むことなどから、1～5号の5基が国指定史跡に指定されています。



金銀錯嵌珠龍文鉄鏡【国重文】

日高町のダンワラ古墳から出土したと伝えられる直径21.3cmの、中国の漢の時代に作られた鉄の鏡です。表面の模様は半分以上が剥落していますが、金や銀で作られた線、赤や青の珠をはめ込んでおり、豪華な仕上げであったことがわかります。この鏡は国内に例がない珍しい鏡であることから、国の重要文化財に指定されています。

三芳校区の主な文化財

元大原神社（神殿・幣殿・拝殿・水盤舎・神輿蔵） と笠塔婆・宝篋印塔【市有文】（神来町）

これらの建物は、江戸時代中頃の1760（宝暦10）年に建てられたもので、日田の代表的な神社である大原八幡宮の元宮として歴史的に価値があることから、市指定有形文化財に指定されています。

また、神社の境内には宝篋印塔2基や笠塔婆があります。宝篋印塔の1基は1347（貞和3）年、笠塔婆は1350（観応元）年頃のもので、どちらも室町時代に製作されたことが判明しています。このように製作年代が分かることや笠塔婆の表面の梵字が2段に刻まれている点が珍しいことから、市の有形文化財に指定されています。



宝篋印塔【市有文】
（神来町）

お経を納める石造物本体に梵字を刻んだものです。元大原神社の宝篋印塔には薬師如来（バイ）や阿弥陀如来（キリーク）等が刻まれています。



笠塔婆【市有文】
（神来町）

亡くなった人を供養するための石造物。宝篋印塔と同じく、本体に梵字を刻んでいます。元大原神社の笠塔婆には大日如来（アーク・バーンク）や釈迦如来（バク）が刻まれています。

知っておきたい文化財

牧原千人塚【市史跡】（大部町）

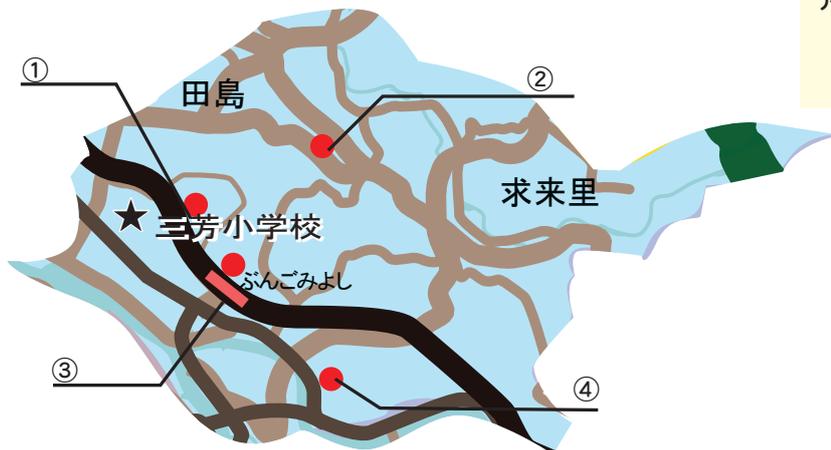
直径約17m、高さ約2mの塚で中央にはかくとうば角塔婆が立ち、本体にはじろうぼさつ地蔵菩薩（カ）や、帝釈天（イ）などの梵字が刻まれています。出土した遺物は室町時代のものと考えられます。塚の近くには南北朝の争いがあったと伝えられる場所があり、その供養のために築かれたものかもしれません。



知っておきたいこと

ほんじ梵字

古代インドの梵語を文字であらわしたもので、石造物に掘り込みをし、仏を表現しています。



三芳校区の文化財

①法恩寺山古墳群【国史跡】

②宝篋印塔【市有文】

元大原神社（神殿・幣殿・拝殿・水盤舎・神輿蔵）【市有文】

求来里笠塔婆【市有文】

③金銀錯嵌珠龍文鉄鏡【国重文】

④牧原千人塚【市史跡】



高瀬校区の文化財

高瀬校区は、日田盆地の南側、三隈川に流れる高瀬川（前津江町の御前岳が源流）左岸に位置する高瀬小学校を中心に高瀬本町、大宮町、琴平町といった12の町から構成される校区です。

「高瀬」という地名は江戸時代より続く歴史ある地名で、1601（慶長6）年頃は東と西高瀬村に分かれていましたが、後に南・北・西高瀬村の3つに分村します。その後、1875（明治8）年にこの3村が合併して高瀬村になり、その後、日田市となりました。このとき、村としての名前は消えますが、高瀬という地名は大字として今も残り、歴史の長さを感じることができます。また、『豊後国風土記』に出てくる景行天皇が久津姫と眺めたといわれる鏡坂の伝承地もこの高瀬校区内にあります。

そうした高瀬校区の歴史を振り返ると、手崎遺跡(大宮町)では縄文時代の集落が発見され、上野遺跡（上野町）では弥生時代にこの地域を治めていた人物のものと思われる大型の甕棺が見つかり、古墳時代になると「蛇行剣」が出土したと伝えられる姫塚古墳（高瀬本町）や惣田塚古墳（琴平町）が造られます。また、上野遺跡（上野町）では、古代に大分と福岡をつなぐ道路に駅家（旅の支度や宿泊する場所）が設置されていた痕跡が見つかりました。中世になると地域を治めていた高瀬氏の菩提を弔うためのお寺（永平寺）や合戦で亡くなった高瀬一族を祀った高瀬天満宮があるなど、高瀬校区は、幅広く歴史を感じることができる校区といえます。

高瀬校区の主な文化財

■ 姫塚古墳【市史跡】（高瀬本町）

三隈川左岸の台地上にある円墳です。2基の石棺系竪穴式石室を主体部としています。発見当時、鉄鏃や土師器などが出土したと伝えられていますが、はっきりと分かっていません。埋葬された人物は、この時期に高瀬地区を治めた人物と考えられています。また、この古墳からは、全国で80件しか発見されていない「蛇行剣」が出土したと伝えられています。この蛇行剣は、そのくねくねと曲がった形から実用的な剣ではなく、儀式や祭祀に使われたものと考えられています。



■ 伝姫塚古墳出土鉄剣
（蛇行剣）【市有文】
（北友田三丁目、埋蔵文化財センター）



■ 惣田塚古墳【市史跡】（琴平町）

高瀬川右岸にある円墳です。覆われていた土はほとんどがなくなっており、石室を外から見るすることができます。中は開いていますが、下の方は土で埋まっています。つくられた時期は、古墳時代の後半と考えられています。



高瀬校区の主な文化財

石人【県有文】（銭淵町）

へんぺいせきじん えんたいせきじん
 扁平石人（左側）と円体石人（右側）と呼ばれる2体の石人のことを指します。扁平石人は顔から胴体、本体、脚部、台座の4つの石で構成されており、裏面には6本の矢を入れた鞞（ゆぎ）が彫られ、朱が塗られています。また、その台座には石人が日田に安置されるまでの経緯が廣瀬淡窓と廣瀬青村（咸宜園3代目塾主）によってまとめられています。

円体石人は江戸時代の模造品ですが、扁平石人は胴部までは福岡県の岩戸山古墳いわとやまこふんのものと言われています。



知っておきたい文化財

永平寺跡板碑【市有文】 （高瀬本町）

高瀬氏居城の近くにあったといわれる金剛山永平寺の跡に残る板碑。2基並んでありともに梵字・キリクと供養の願文が刻まれています。大きい方が1313（正和2）年、小さい方には1157（保元2）年の年号が刻まれています。



黒岩梵字【未指定】 （高瀬本町）

1802（享和2）年に江戸時代の僧侶である豪潮律師が、三隈川の水難除けのために、川原の石に梵字を刻んだもの。豪潮は、その生涯を通じて飢饉救済などを目的とした宝篋印塔の建立に勤めたと伝えられています。

この黒岩に刻まれた梵字はバン（大日如来）です。



高瀬校区



高瀬校区の文化財

- ①石幢【市有文】
- ②姫塚古墳【市史跡】
- ③宇野家住宅【国登録】
- ④永平寺板碑【市有文】
- ⑤石人【県有文】
- ⑥惣田塚古墳【市史跡】
- ⑦木造阿弥陀来坐像【県有文】
- ⑧阿弥陀如来坐像【市有文】
- ⑨黒岩梵字【未指定】





光岡校区の文化財

光岡校区は、日田市中心部より少し北側、市内を代表する台地の一つである吹上台地のすぐ南に位置する光岡小学校を中心に日ノ出町、清岸寺町、吹上町など10の町から構成される校区です。

小学校の周辺には、日田市内を見渡す吹上台地上に弥生時代の拠点的な集落と、当時の日田を治めていた人たちのお墓が発見された吹上遺跡があります。特に、お墓から見つかった副葬品はいずれも豪華で、埋葬された人物が大変な有力者であったことを知ることができる貴重な文化財です。その他、中世の日田において大蔵氏の隆盛を象徴し、現在もその姿を残す^{がくりんじ}岳林寺。その岳林寺に関連すると思われる片山磨崖種子^{かたやまがいのしゅじ}や吹上観音^{ふきあげかんのん}など、すぐに見に行ける貴重な文化財が数多くあります。また、少し足を伸ばせば、三郎丸古墳^{さぶろうまるこふん}や長善寺の鐘楼門などもあります。さらに吹上台地上では現在でも土器片などを見つけることができ、歴史を肌で感じることができます。

このように光岡校区は、学校の外に一步出るとすぐに歴史・文化に触れることができる地区であるといえます。

知っておきたい文化財

さぶろうまるこふん

三郎丸古墳【市史跡】

(北友田二丁目)

星隈山の近く、花月川のそばにある円墳です。古墳内部は一部開いてしまっていますが、そのほとんどが土砂で埋まっています。詳細は分かっていません。しかし、古墳からは6世紀後半頃の遺物が見つかり、その頃のものであると考えられます。



光岡校区の主な文化財

吹上遺跡

【県史跡】(大字小迫・吹上・渡里)

吹上遺跡出土遺物【国重文】

(宇佐市：県立歴史博物館)

吹上台地の全体に広がるこの遺跡(写真左下)は、昔から畑を作る際に土器の欠片が見つかり、遺跡があると言われていた場所でした。昭和28年に調査がおこなわれて以降、弥生時代の拠点的な集落として広く知られるようになりました。平成7年度の発掘調査では、当時の日田地域を治めていたと考えられる有力者たちのお墓(写真右)が発見され、その場所は大分県の史跡に指定されています。

さらにそこから出土した副葬品である銅剣・銅戈・ゴホウラ製貝輪・イモガイ製貝輪・硬玉製勾玉・ガラス管玉など577点が国の重要文化財に指定されています(写真中央)。特に、貝輪は当時の人たちがどのようにして装着していたかを知ることのできる重要な発見になりました。



光岡校区の主な文化財

岳林寺に関連する文化財：県・市有形文化財 ほか
(北友田一丁目：郷土史料館)

岳林寺はその歴史の深さから現在の寺域の内外に関連する文化財が多くあります。ここでは、その一部を紹介します。

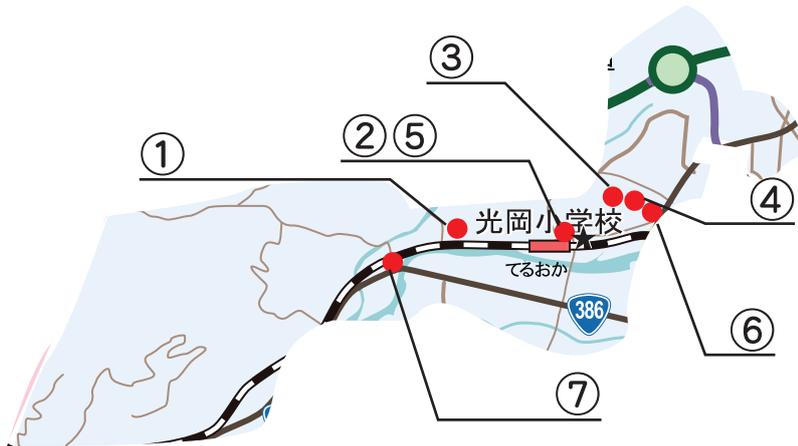
岳林寺木造明極楚俊坐像【県有文】

岳林寺を開いた明極楚俊^{せんじ}禅師の像。高さは1m程で、檜材^{ひのき}を使用してつくられています。禅師が亡くなった後に造られたもので、当時の製作方法がよく表現されています。



岳林寺文書【市有文】

岳林寺には中世から近世にかけて書かれた文書50数通が保有され、市の有形文化財に指定されています。中世に書かれた文書は火災等で燃えてしまいましたが、近世の文書の中には徳川綱吉を始め代々将軍の名前が見られる文書(上)やお寺の範囲を示す絵図(下)など岳林寺の歴史を知る貴重な文書が数多く指定されています。



光岡校区の文化財

- ①片山磨崖種子【市史跡】
- ②岳林寺木造明極楚俊坐像【市有文】
岳林寺文書【市有文】
- ③吹上遺跡【県史跡】
- ④吹上観音坐像【市有文】
- ⑤須恵器子持高坏【市有文】
- ⑥長善寺 鐘楼門【国登文】
- ⑦三郎丸古墳【市史跡】

知っておきたい文化財

片山磨崖種子【市史跡】
(北友田二丁目)

吹上台地西端の南向きの岩壁を3.5m×2mに窪めてその中に仏様(釈迦如来)を意味する「種子」といわれる梵字(P 81)が刻まれています。周辺には中世の集落が広がっていたと考えられ、当時は文字がよく見えたことが想像されます。彫られた時期は、岳林寺が造られた2年後の1344(康永3)年で、岳林寺に関連したものである可能性も考えられます。



吹上観音坐像【市有文】
(吹上町)

日田市を見下ろす吹上台地の東端にある吹上神社に祀られています。顔、胸や腹の部分は平安時代中期頃に作られたものといわれていますが、それ以外の部分は鎌倉時代から室町時代に補修されたものと考えられます。





朝日校区の文化財

朝日校区は日田盆地の北側、吹上原台地と山田原台地にくしの谷間に位置する朝日小学校を中心おざこに大字小迫（清岸寺町を除く）、筑後川の支流である二串川の下流一帯にある大字二串（北友田2丁目を除く）、山田原台地周辺の大字山田の3地域を主な校区としています。

昭和15年まであった朝日村の名前が残ったものと考えられます。

そしてさらにさかのぼっていくと、朝日村は、豊後国日田郡巨里郷内の村落としてあった小迫、二串、山田の3つの村を合併して明治22年に誕生したのです。

この「巨理」という地名は、古代の日田五郷の一つとして平安時代に書かれた辞書『和名類聚抄』わみょうるいじゅうしょうにも記されています。また、朝日校区にある小迫辻原遺跡からは、「大領」だいりょう（古代の役職の名前）と書かれた土器や大型の建物跡が発見されており、この地域に当時の役所があった可能性が考えられます。

さらに、古墳時代後期には大分県内でも最大級の古墳である朝日天神山古墳あさひてんじんやまがあるなど、朝日校区は日田市の歴史を語る上で重要な校区の一つであると考えられます。



← 環濠から出土した土器



朝日校区の主な文化財

小迫辻原遺跡【国史跡】 (大字小迫)

弥生時代の後半から中世にかけて様々な時代の遺構が残る遺跡です。その主な時代は、弥生時代の終わりから古墳時代の初めにかけてで、居館きょかんと環濠集落かんごうしゅうらくが見つかっています。

居館と環濠集落は、離れた場所にあり、居館にはこの地域を治めていた豪族たちが住み、環濠集落には一般の人々が生活していたと考えられます。

居館は東西方向に3基並んでいて、それぞれ一辺が3.7m、4.7m、2.0mの濠が四方を巡っていました。この濠の内側には掘立柱建物ほったてはしらたてものが見つかっており、豪族たちの住まいだけでなく、儀式や政治をおこなう場所があったと考えられています。

この他にも小迫辻原遺跡は、先にあげた古代の役所跡の可能性を考察することができる文字の書かれた土器（写真左下）が発見されたほか、中世の屋敷跡やお墓が発見されるなど、各時代の変遷を一つの場所で追うことができる貴重な遺跡です。

朝日校区の主な文化財

朝日天神山古墳群 【県史跡】（大字小迫）

この古墳群は、朝日小学校の北側にある宮原台地みやばらの南端にあります。この古墳が最初に知られるきっかけになったのは、昭和3年の天満社建設の際に1号墳後円部の石室より多くの遺物が出てきたことに始まります。

その後の調査で、古墳は2基あり、ともに西側を向いていること、1号墳は6世紀前半頃の古墳で全長約53m、2号墳は6世紀後半頃で全長約85mもあり、この時代では県内最大級の大きさであることなどが分かりました。

その他に、1号墳からは水晶で作られた「三輪玉」みわだま（写真左上）という太刀に飾る装飾品や、2号墳からは埴輪の代わりに並べられた「大型平底壺」おおがたひらぞこつぼ（写真右上）がみつかりました。

その後、平成15年度にこの古墳群は、県内の古墳時代の歴史を知る上で重要なものとして、大分県の史跡に指定されています。



知っておきたい文化財

朝日宮ノ原遺跡 4号中世墓出土品【県有文】 （北友田三丁目、埋蔵文化財センター）

昭和62年におこなわれた発掘調査でこの遺跡の4号墓から発見された遺物です。木棺のお墓の中には青磁碗2個、合子ごうす（小型の容器）1合、湖州鏡1面、和鉄1本などが見つかり、この他に水晶製の数珠玉が被葬者の胸の辺りから43個見つかりました。発見された遺物の大半は中国宋の時代のものと考えられています。



木造大日如来坐像（左） 木造毘沙門天立像（右） 【市有文】（山田町、宝積寺）

この2つの木像は、旧小倉街道沿いにあり、多くの石造物が存在する宝積寺にあります。大日如来坐像は日田では珍しい柿材を用いて造られており、1541（天文10）年の11月に津江・安心院・用松といったこの地の豪族によって寄進されたことがわかっています。



朝日校区の文化財

- ①木造大日如来坐像【市有文】
木造毘沙門天立像【市有文】
- ②小迫辻原遺跡【国史跡】
- ③朝日天神山古墳【県史跡】